

HCU EAGLES NEWS

広島都市学園大学 女子バスケットボール部 R3.07 NO.1



第 47 回中国大学バスケットボール選手権春期優勝大会を終えて

今大会は 5 月の連休に開催される予定であったが、コロナウィルス感染症感染拡大のため延期され、完全無観客で 7 月 9 日から 11 日までの 3 日間で開催された。広島都市学園大学は今年 4 月にチームが創設されて初めての大会参加であった。各チーム 1 日 1 試合だけという限られた試合数で開催されることとなったため、順位を決めるトーナメントではなく、変則的な組み合わせで開催されることとなった。

本学は初参加ということもあり、前回大会 1 位の広島大学が初戦という組み合わせとなった。全国でも強豪校出身の選手をそろえる広島大学に対し、どこまで戦えるかが楽しみな大会ではあったが、コロナによる練習休止が開けた翌々日、6 月 16 日にキャプテン西が右膝を負傷し、7 月 4 日には副キャプテンの関口が高校との練習試合で足首を捻挫し、元気な選手は 3 人しかいないというまさにこちらにも緊急事態での大会参加となった。大会の棄権も考えたが、医師からは、試合前に痛み止め注射を打って参加できるとの診断を得たこともあり、棄権は取りやめることとした。

監督として今大会の最大の目標は、これ以上怪我を悪化させないことと定めざるを得なかった。選手は勝ちたいと思っているし、大学のチームの中で、自分たちがどこまでできるかを試したいと思っていることはひしひしと感じてはいたが、故障者の負担を最大限少なくして戦うことを念頭に置いた大会となった。

7 月 9 日初戦対広島大学では、さすがに試合経験の豊富さを見せつけられた。身長 mismatches を突いた得点のみならず、左右の展開の早さからディフェンスの遅れを生じさせ、巧みな攻撃を仕掛けてきた。本学もマークマンを交代するなどして対応し、関口が 5 本の 3 ポイントを決めるなどと健闘したが、着実に点差を開けられ、最終的には 70 対 49 で敗れた。もしも選手のコンディションが万全で、さらに 4 月に左膝を故障して今回はマネージャー業に専念してくれた溝口が復帰できたときには、もう少しいい試合ができるのではないかという手応えは感じられた。もちろんディフェンスをまだまだ強化する必要があるし、オフェンスも練習していることが徹底できるよう、さらに練習が必要であるという課題は残されている。

広島都市学園大学 49	}	7-18	70 広島大学
		12-16	
		7-15	
		23-21	

7月10日敗者戦 1 戦目対安田女子大では、前日キャプテン西が膝を痛めていた右足の足首をさらに捻挫したため、ますますの緊急事態となった。故障者が動かなくてすむようなゾーンディフェンスを急遽一つ加えて対応すると共に、故障者には他の選手をうまく生かすプレーを覚えるよう要求した。科野、鶴池が得点を重ね、結果としては点差を大きく開けて勝つこととなった。

広島都市学園大学 92	}	17-9	55 安田女子大学
		18-13	
		36-22	
		21-11	

7月11日敗者戦 2 戦目対広島文教大学。今年中国2部からのスタートとなる本学にとっては、今後重要な対戦相手となる可能性のある相手である。選手のコンディションは前日と変わらないため、ディフェンスをどの様に工夫するかが鍵となる一戦であった。今年度広島文教大学は全国大会出場経験のある高校の選手が複数人入学している。簡単には勝たせてもらえないと考え、戦況をみながらディフェンスを色々工夫した。50-39で前半を折り返し、昨日より少し動きが軽くなったキャプテン西の得点を始め、里の3点シュート等で後半も少しずつ点差をひろげていった。終わってみれば15点差での勝利であった。

広島都市学園大学 91	}	23-24	76 広島文教大学
		27-15	
		22-18	
		19-19	

今大会は大変なチームコンディションの中での戦いとなったが、選手は今できることに全力を傾け、チーム全体で試合に向き合った。ミーティングでは、選手それぞれが感じた課題を全員で共有し、試合で少しでも改善しようとする姿が見られた。



どうしてもディフェンスから逃げてしまう選手も、強くなろうと自分と戦う姿が見られた。まだまだディフェンスや、ボックスアウトがいい加減になってしまったり、チームオフェンスが、チームとして未完成であったりと課題は山積みではあるが、これからの練習でやるべきことを確認できた大会であった。まずは故障を治し、コンディションを整えるところからスタートしたい。